

礼拝プログラム ※主の導きにより変わる事があります

- 黙祷 ロマ8:17-18 …… 御言葉に耳を傾け心を主に向けましょう。
- \*賛美 …………… 9番
- \*交読文 …………… 10番
- \*使徒信条 …………… 会衆一同
- \*頌栄 …………… 171番
- 礼拝のための祈り …… 1部:渡辺和歌子 働き人 2部:小林美之 働き人
- 賛美 …………… 470番
- メッセージ …… 王としての本格トレーニングが始まるダビデ(1サムエル記 18:1-16)
- 御言葉を適用する祈り .. 会衆一同
- 賛美 …………… 458番
- 献金感謝の祈り …… パスター
- \*主の祈り …………… 会衆一同
- \*祝祷 …………… パスター

天声教会は

- ・御言葉なる主の御声を忠実に聞く教会。(ヨハネ 1:1、マタイ 3:17、17:5)
- ・主の御言葉を心で信じて義に至る教会。(ローマ 10:10)
- ・全能なる主の御言葉を口で告白し、救いに至る教会。(ローマ 10:10)
- ・受けた恵みを愛と忍耐をもって実践する教会。(テサロニケ 3:5)

祝福の御言葉(下線にご自身のお名前を入れて宣言して下さい)

\_\_\_\_は、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない。いつもイエスの死をこの身に負っている。それはまた、イエスのいのちが、\_\_\_\_の身に現れるためである。\_\_\_\_は、イエスのために絶えず死に渡されているのである。それはイエスのいのちが、\_\_\_\_の死ぬべき肉体に現れるためである こうして、死は\_\_\_\_のうちに働き、いのちは\_\_\_\_のうちに働くのである。(2コリント 4:8-12) \_\_\_\_は再び恐れを抱かせる奴隷の霊を受けたのではなく、子たる身分を授ける霊を受けたのである。その霊によって、\_\_\_\_は「アバ、父よ」と呼ぶのである。御霊みずから、\_\_\_\_の霊と共に、\_\_\_\_が神の子である事を証して下さる。もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがて\_\_\_\_に現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。(ロマ 8:15-18)

サムエル記は歴史書であるが、同時に非常に優れた「帝王学」の書である。今回もダビデから、また、彼の周辺の人々から、神の国において、王たるに相応しい者の性質と、相応しくない者の性質とを学びたい。ゴリヤテを倒した事は、終わりではなく、神様による本格的なトレーニングの始まりだった。ダビデはつい前日まで野における羊飼いだっただが、サウルが召し抱えた日以降、彼はそうではなくなり、今までは全く経験した事が無い所を、否が応でも通らされる。主に用いられるなら、その気がなくても否が応でも有名になり、多くの人々から賞賛と寵愛を受け、同時に妬まれ、脅かそうとする者も現れて来る。ダビデが信仰によって勝利した事を大いに喜んだのは、サウルの子ヨナタンと、イスラエルの人々だった。ダビデとヨナタンは、生い立ちも立場もと著しく異なる。一方は王子で長男で、時期の王と注目されていたが、他方は末っ子で、羊飼いで、家の中でさえ軽んじられていた。それでもヨナタンは、身分差別とか、自分の将来の邪魔になるのでは、といった「要らぬ心配」など一切無く、貴重な武器も防具も惜しげなくダビデに与え、彼を愛した。それは、生ける神を信じる信仰者は、身分や国籍など関係なく、互いの内におられる主に惹きつけられ、意気投合し、血が繋がった実の兄弟姉妹以上の親しさを覚えるからである。『ダビデはどこでもサウルがつかわす所に出て行って、「てがらを立てた(セイケル:思慮深くやった、うまくやった KIV:behaved himself wisely)」』ので、サウルは彼を兵の隊長とした。それはすべての民の心にかない、またサウルの家来たちの心にもかなくなった。』(5節) ダビデは若干にして戦闘部隊の長になった。会社では、上司が著しく年下だと、関係が崩れやすいものだが、ダビデの場合、そうではなかった。なぜなら彼は羊飼いの心で、部下の面倒を良く見、戦いでもいつも先頭に立って戦い、「思慮深く、うまくやっていた」ため、いつも圧倒的な実績を収めていたからだ。それで誰もが安心してついて行けたのだ。彼はこうして、急速に有名になり、名声を得、誰もが彼を愛し、急速に社会的に地位を得て行く。それと同時に、今まで経験した事の無い、人間のどろどろした物事も経験して行く事になる。

サウルの部隊が戦いに勝利して凱旋した時、女達はすべての町々から出てきて、喜び歌いながらサウル王を迎えるのだが、その歌った内容は、「サウルは千を撃ち殺し、ダビデは万を撃ち殺した」だった。ダビデは、羊を飼っていた時、羊達からありがたの言葉をもらった事は無かったし、命がけで熊を倒した時も、羊達は歌と踊りと華やいだ歓声で迎えてくれなかった。今まで得ていなかった名声を得、異性からもてはやされる事は、大きな誘惑であり、その、「最初の世からの攻撃」によってダメになってしまう人は多い。しかしダビデは、その点も「うまくや」った。彼があらゆる点でうまくやる事が出来たのは、彼は心を世に向けず、ただ主に向けており、主から知恵と守りを得ていたからだ。そして、羊飼いの心を変えなかった。名声を得たとたんダメになってしまう人は多いが、ダビデの生涯、誰かに嫉妬した記述は1つも無い。ヨナタンも同じである。彼らはその点クリアだったが、サウルは違った。サウルは女達の歌を聞いて非常に怒り、妬み、不満に思った。部下の活躍を素直に喜ばず、妬み怒るのは、リーダーとしては非常に悪い兆候だ。**ねたみ、怒り、邪推、それらの感情への執念深さ、これらは、最も悪霊が好むものである。**『その翌日、神からの悪い霊がサウルに激しく下り、彼は家の中で「狂いわめいた(ナーバー:預言した)』。ダビデは、いつものように、琴を手にしてひいたが、サウルの手には槍があった。』(10節) 槍は王宮の中では必要無いはずなのに、サウルは槍を握っており、対してダビデは、主を賛美する楽器を持っていた。ナイフを持ち歩きたがる人がよく職務質問されるのは、表情が悪いからだ、サウルはもっと悪かった。『サウルはその槍を投げつけた。ダビデを壁に突き刺してやろう、と思ったからである。しかしダビデは二度も身をかかわした。』(11節) ここで特筆すべきは、**二度、それらの事があった、**という事である。ダビデは槍を投げられ、それをかわした後、再び楽器を取って賛美を弾き始め、サウルはもう一度槍を投げたのだ。悪霊は、賛美をする人を極端に嫌い、槍を投げつけるが、主は守られる。サウルが倒せなかったゴリヤテを倒したダビデであるが、彼はサウルに仕返す事も脅す事もせず、ただ全能者の御手に委ね、賛美による悪霊を追い出すミニストリーをした。まさにイエス様の性質であり、私達も身につけるべきものだ。キリスト者は、いつも死に渡されているようである殺される事は無い。主は、振りかかる全ての困難を通しダビデを守り鍛えられたように、私達をも、王族の祭司として整えられるまで、全てを支配し、守られるからだ。ダビデのようにただ心を主に向け、あらゆる点で「うまくやる」知恵と力が与えられる皆さんでありますように!

# 横浜天声キリスト教会

## 礼拝 週報



### 集会案内

各礼拝はインターネットでライブ中継しております → [youtube.com/c/横浜天声キリスト教会](https://youtube.com/c/横浜天声キリスト教会)

#### 日曜礼拝

1部礼拝 10:30 賛美 11:00 礼拝  
食事/フェローシップ/賛美 12:30~  
2部礼拝(韓国語通訳有) 14:00

金曜徹夜祈祷会 21:00~

#### 日々の集会

月~金 早天祈祷会 5:00~  
火・木・金 賛美と祈りの集会 13:00~  
火~木 夜の祈祷会 19:30~

#### 水曜礼拝

1部 13:00~  
2部 19:30~

### アクセス

横浜市営地下鉄・伊勢佐木長者町駅  
6番B出口を出てまっすぐ徒歩5分  
JR・関内駅より徒歩10分  
京急線・日ノ出町駅より徒歩10分

関内駅から伸びる大通公園沿い、  
伊勢佐木警察署の向かい対角線上にあり、  
1Fがファミリーマートになっております。



聖書メッセージを携帯で  
聖書メッセージをメールで  
毎日携帯にお届けします。  
左記コードを読み込み、  
空メールを送信するだけ！



〒231-0058

パスター: 林和也

神奈川県横浜市中区弥生町2-17 ストックタワー大通公園I-201  
TEL/FAX: 045-326-6211

Homepage: <http://voh.plala.jp/>

email: [ephes\\_03-tensei@yahoo.co.jp](mailto:ephes_03-tensei@yahoo.co.jp)



YouTube